

開催地名：奈良県天理市	
開催日時	令和元年 8 月 10 日（土） 10：00 ～ 12：00
開催場所	天理市文化センター
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	天理市内自主防災組織、関係機関 約 200 名
開催経緯	天理市においては、平成 29 年度の台風 21 号、平成 30 年の 7 月豪雨や、台風 21 号など、近年において、災害が多く発生しており、市の体制についても随時改善を図っていきながら、より強固な防災体制の構築に努めているところである。 最近においては、全国的にも、様々な災害が多く発生している現状もあり、公助の取組だけではどうしても行き届かない部分があるため、地域の活動（共助の仕組み）は非常に重要なものであると認識している。また、自主防災組織からも、どのような取組をしていけば良いのかといった意見も多く、東日本大震災の経験から具体的なアドバイス等を頂ければと考えている。
内容	（１）防災の基本とは 「心配ない」、「ありえない」、「大丈夫」、「まさかと思う」。これらは全て人間だけが思うことである。新聞やテレビのニュースで「まさかこんな大きな地震がくるとは。来ない地域だったのに。」という話をよく聞く。防災は危機感と想定以上の備えは基本だと思う。様々な自然災害が今後も発生すると思われるので、全ての責任者は最大の危機感と想定以上の備えで命を守ることを是非お願いしたい。「想定外という言葉は単なる言い訳である」ということを是非肝に銘じていただきたい。 （２）危機感と想定以上の備えは全てに関係 ・ 危機感：相手は自然災害。「まさか」が起こりうる。これが災害である。 ・ 想定以上の備え：想定外という言葉は単なる言い訳である。 ・ 自助：各家庭においての防災は災害の知識・備え・共助への理解と努力。 ・ 共助：地域において、公助に頼らず共助で解決して行く。 人間には考える力、行動する力がある。自然災害に勝つには、危機感と想定以上の備えが必要である。 （３）平成 18 年から行われた 5 ヶ年の活動 災害に勝つために平成 18 年からありとあらゆる準備を行ってきた。まずは町内会の企画と計画で防災マップ、防災マニュアルこれらの作成を重点的にを行い、管轄の仙台市太白区茂庭台 5 丁目全 269 世帯に配布した。そして、同じく地域

において、消火班、救護班、救出班、避難誘導班、給食給水班、報告連絡班、警備班からなる自主防災組織もあわせて設立した。これらは前年の班長が自主防災組織委員になったうえで、それらの役割についてもらった。持ち回りのため、5年も経てばほとんどの世帯の人々が経験することになる。従って、災害発生時にはその班員がいなくとも、経験者が担えるようになった。それと並行して、毎年5、6月には防災勉強会も実施し、町内地域において防災に関する意見交換も行った。それらの総仕上げとしてあえて勉強会の内容を忘れた頃（具体的には毎年9月頃）に総合防災訓練を行った。その防災訓練についても、昼に災害が発生した場合、夜に災害が発生した場合と交互に、地域全世帯の方が全員参加できるように日曜日の開催とした。さらには、平日の昼間に小中高生を中心とした訓練も取り入れた。

また、地域内の介助者として、医師、介護士、学校の先生などの職についていた方々を募り、災害時の協力体制も整備していった。

（４）大震災発生時

前項で述べた「5ヵ年活動」で行っていたことを実践できたことで、各避難所の運営はスムーズにいったと思っている。その中でも重要な要素を占めるのが、小・中高生にある程度の役割を持たせることにより、震災後の避難所の対応やイメージが良い方へ向くということである。結局は地域ぐるみでの日頃の積み重ねがいざというときには非常に役立つ。



開催地より

東日本大震災の経験談とともに、その前に行っていた災害に対する準備についてや、避難所への避難誘導や運営に関することをわかりやすくお話しただいた。今後の地域の活動（共助の仕組み）や自主防災組織の活動に大変参考になると思う。